



作文2部

もんぶかくだいじんしょう
文部科学大臣賞

わが家の田んぼは動物園

茨城県筑西市立古里小学校四年

戸頃 敦

私のそ父母は、せん業農家をしています。つくば山の西のふもとにある筑西市で、毎年かかさずお米を作っています。そ父母がお米を育てている田んぼには、きせつごとに色々なこん虫や動物がやってきて、とてもにぎやかです。まるで、田んぼは動物園のようです。

毎年、春のあたたかいきせつになると、そ父母は田んぼにいねのなえを植えるためのじゅんびをはじめます。そ父母の田んぼに遊びにでかけると、土手にはタンポポやナズナなどの色とりどりのきれいな花がさいいて、その周りではモンシロチョウやナナホシテントウ虫がのんびりと日向ぼっこをしています。私はそれがほほえましく感じて、とてもやさしい気持ちになります。そ父がこう運機で土地をたがやしているところには、どこからともなくハクセキレイやシラサギが飛んできます。土の中からほり起こされたよう虫やミミズを食べるためです。そんなちゃっかり者の鳥たちは、えさを食べるためにそ父がたがやした後をいそがしうについて回ります。そ父と鳥たちは田んぼをパレードしているようです。また、水路に目を向けると、ザリガニとドジョウが水の中ですずしそうにしています。ザリガニは大きなツメを自まん

げに持ち上げながら、とても強そうに歩いています。でも、私が水路をのぞきこむと、びっくりして一目さんに後ずさりします。見かけによらずおく病者です。ドジョウはいきようのある顔をしています。でももの静かでも水路のそこに体をもぐらせてじつとしています。ドジョウはきつとはずかしがり屋です。そして、秋のすずしいきせつになると、今度はアカトンボとイナゴがやってきます。大きく育つたいなほの上を軽やかに飛び回ります。実りの秋をうれしく思って、風にゆれる黄金色のじゅうたんの上をダンスしているようです。

しかし、そんなにぎやかな田んぼも、いねのしゅうかくを終えて、水路の水がなくなると、急に静まり返ります。もう草村でコオロギが鳴く声も聞こえませんが、私は、いつも田んぼにやってくるみんなのことを思い出しました。こん虫や鳥たちは遊び場がなくなつて悲しんでいないだろうか、ザリガニやドジョウは住家にこまっついていないだろうか、そして、ちゃんと冬じたくできているのだろうか、とても心配になりました。でも寒い冬が終わつて、またあたたかい春がやってくると、みんなはなにくわぬ顔で元気に田んぼにもどつてきます。そ父母の田んぼは、みんなにとってかけがえのないふるさとようです。

そ父母の田んぼには、たくさんのこん虫や動物がやってきます。それは、そこが緑ゆたかですんだ水の流れる良い土地だからだと思えます。そして、そんなめぐまれた田んぼだからこそ、いつも美味しいお米が育つのだと思えます。そ父母の田んぼは、私にとつても、ずっと大切に守っていききたいふるさとです。